令和４年度宮城県試験研究機関評価委員会
第１回農業関係試験研究機関評価部会
議　事　録

日時：令和４年１０月２７日（木）
　　午後１時３０分から４時まで
場所：宮城県畜産試験場２階大会議室他

１　開　　会

２　挨　　拶

（１）宮城県試験研究機関評価委員会農業関係試験研究機関評価部会　中村部会長

本日はお忙しい中，お集まりくださりありがとうございます。ウクライナ情勢や新型コロナウイルス，飼料代高騰，円安等により社会情勢が厳しくなる中，今後の国内における食料生産が重要になります。その中で試験研究機関が果たす役割は非常に大きくなると思われるので，特に研究の現場で業務に携わる職員の皆様の活躍に期待します。

（２）宮城県畜産試験場　氏家場長

本日は，評価部会長の公益大学法人宮城大学中村教授をはじめ委員の皆様には，はるばる畜産試験場にお越しいただきましてありがとうございます。これから当場における機関評価につきまして，よろしくお願いいたします。

本日は現地検討会として，場内の養豚エリア，乳牛エリアを中心に視察を行っていただきますが，豚熱の侵入防止対策に厳格にルールを定めて対応している都合上，視察する人数を制限させていただきます。また，場内への入場は専用の防護服及び長靴の着用をお願いしたいと思っておりますので，その点はご理解をよろしくお願いしたいと思います。

さて，宮城県の農業産出額は畜産が 700 億円を超える産業まで成長し，米と並ぶ本県農業の大きな柱となっております。

その中で，令和２年後半からの家畜飼料の価格高騰が収まらず，県内の畜産農家の経営をさらに圧迫しています。今年に入りウクライナ情勢や円安の複合的な要因が絡み合い，価格安定の道筋は見えない状況であり，光熱費や燃油の高騰も追い打ちをかけています。このような中，国産飼料増産を目的に耕畜連携を波及効果として本年度から大崎市，涌谷町を中心に新たな転作作物として，子実用トウモロコシの生産が始まり，当場としても，水田における栽培技術確立のため，涌谷町内で研究に取り組んでいるところです。

畜産試験場としては，これまでも種雄牛や種豚など家畜改良や飼料作物の選定などを通じて，県内畜産生産農家の生産性向上に大きく寄与しておりますが，これからも，持続可能な生産活動を支援するため，現場からの多様なニーズなどに対応していく責任があると感じております。

本日の機関評価においては，現地検討と室内検討に分けて，当場の運営の現状を説明し，評価をいただきながら今後の業務に活かしていきたいと思いますので，委員の皆様には，忌憚のない御意見と御助言をいただきますよう，どうぞよろしくお願い申し上げます。

３　諮問書手交（新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から，机上配付）

※諮問書手交の後，委員及び職員の紹介。

４　審議事項（議長：中村部会長）

（１）畜産試験場の機関評価

宮城県畜産試験場　氏家場長がパワーポイント（資料２）により説明

質疑応答

Q【菊地副部会長】設備の老朽化が懸念されているとのことだが，管理費は若干増額している。実際どのような事を懸念しているのか。

A【氏家場長】試験場として試験研究よりも種畜の配付を優先しているため，配付に係る経費を削ることはできない。そのため，試験研究を絞って実施することによって施設を有効活用している。もう一点，施設修繕を業者に頼むのではなく，職員自ら行う事により経費削減に努めて試験研究を維持している。新しい施設を造れば新しい研究ができるかもしれないが，維持管理費がかかるので，現状の試験研究レベルを維持することがベストであると考えている。

Q【菊地副部会長】新しい施設を造るための予算が必要というよりは，改修費や維持管理費がもっとあれば良いということか。

A【氏家場長】その通り。

Q【菊地副部会長】先ほど中村部会長からも話があったが，世界情勢が不安定になってきているため，様々な物が高騰している。飼料代等も高騰していると思われるが，影響はあるか。

A【氏家場長】国の飼料代補填制度については，試験研究機関は対象ではないため，県庁と調整し飼料代高騰分は予算を補正して対応している。

Q【中村部会長】昼間分娩誘起について，ＩＣＴ機器を活用することによって労力軽減をされているが，今後ＩＣＴを活用した取り組みは様々な分野で必要になると思われる。予算が厳しい事情もあると思うが，今後，他の飼養管理においてもＩＣＴ機器を活用するのか。

A【氏家場長】ＩＣＴに関連する試験研究が必要かどうかという論点があるかと思いますが，ＩＣＴに関連する試験研究を実施している他都道府県では，概ね，新しい施設を導入した際に併せてＩＣＴの研究を導入するということが一般的である。また，国内ではなく外国の技術を導入しているため，その技術が農家に定着するか分からないが，試験研究機関としては膨大なデータが取れることに魅力を感じている。データを分析できる職員の育成が必要になってくると思われる。当研究所では，簡易的でどの酪農家でも使えるようなＩＣＴの技術であるなら試験研究課題に取り組むことは可能と考えているが，いわゆる「施設型」というものについては，今のところ検討していない。

Q【中村部会長】宮城県内の生産者で，この分娩管理の方法を利用している方はどれくらいいるのか。

A【氏家場長】ＩＣＴ機器を使用した分娩管理装置については，乳牛と肉用牛を繁殖している生産者で 80～100 軒位導入している。畜産試験場は，起きている時間にモニタリングできれば良いという発想の元，日中に分娩させる 30 年前の技術を組合せたものを導入した。県内の生産者では，昼間分娩を１～２軒実施していると思われる。

【佐々木委員】初めて畜産試験場に来たが，広大な面積の中で家畜を 500 頭以上飼育しながら試験研究に取り組むのは大変だと感じた。日本の農業という広い視点で考えると，現在の状況は最悪なものであり，現状を乗り越えるためには畜産がキーワードになると考えている。ウクライナ情勢等で資材費や飼料代が高騰している中で，畜産を継続することは国土の維持に繋がる。同時に，主食の米や農産物が問題なく生産される環境が望ましい。本日紹介のあった堆肥のペレット化の研究等は非常に期待度が高く，畜産だけでなく作物生産の向上にも繋がる技術なので，今後も宮城県の農業が豊かになっていく取組に期待する。

５　報　告

（１）令和４年度農業関係試験研究計画について

令和４年度農業関係試験研究計画について，農業・園芸総合研究所企画調整部中込技師が資料３により報告。

（２）普及に移す技術（第９７号）について

普及に移す技術（第９７号）について，農業・園芸総合研究所企画調整部中込技師が資料４により報告。

質疑応答

【中村部会長】近年，被覆型肥料に使用されるマイクロプラスチックの問題が取り上げられており，今後，利用し辛くなると想定される。今回の普及に移す技術で成果として発表している技術への言及ではないが，コーティング肥料と試験研究の関わり方は，今後の検討が必要となる。

Q【菊地副部会長】機関評価表に関して，研究成果の普及体制や技術支援関係業務等の状況について記載することになっているが，成果の普及体制や技術支援関係業務の実施状況を教えて欲しい。

A【氏家場長】生産者を対象とした講習会や堆肥センターの作業員を対象とした研修会を実施している。また，農協からの要望により，技術支援を行っている。単純に講習会や研修会を開催するだけではなく，試験場が開発した技術を生産現場の技術員に伝承することが大切だと考えている。

６　今後のスケジュール等について

今後のスケジュールについて，農業・園芸総合研究所企画調整部戸祭技術次長が説明。

７　閉　会（農業・園芸総合研究所髙橋所長）

委員の皆様方には，お忙しい中評価部会にご出席いただき誠にありがとうございました。

本日は畜産試験場の機関評価ということで，施設等をご覧いただき，評価いただいたわけですが，県の農業関係試験研究機関は畜産試験場，古川農業試験場，農業・園芸総合研究所と３機関ございます。それぞれの研究機関が専門分野を持って研究に取り組んでおりますが，佐々木委員からご意見をいただいたとおり，３機関が有機的に結合しながら試験研究を行う必要があると思った次第でございます。

今後とも，忌憚のない皆様方のご議論をいただきようお願い申し上げまして，簡単でございますが，ご挨拶とさせていただきます。本日は大変ありがとうございました。